

# ふくしま県人会だより

第51号  
令和7年9月  
福島県人会  
北海道連合会

## 福島県人会北海道連合会会長

### 就任のあいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 渡辺 健治



佐藤貞夫前連合会会長より引き継ぎまして連合会会長職を拝命しました。苦小牧福島県人会の渡辺健治でございます。

去る五月三十一日、第五十三回福島県人会北海道連合会総会が苦小牧市のグランドホテルニュー王子で開催されました。当地での開催は今回で三回目となり担当県人会の会長として、県事務所と再々打ち合わせを行い、無事終了することができました。ご来苦頂いた各地県人会

の皆様には心から感謝申し上げます。と共に総会のお手伝いをしていただいた当県人会会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

総会では、令和六年度事業報告及び決算報告と令和七年度事業計画及び予算案が承認されました。総会及び懇親会には、来賓として母県から鈴木正晃副知事、西山尚利県議会議長と地元苦小牧から金澤俊市長、松尾省勝市議会副議長、青森県人会会長、秋田県人会幹事長、宮城県人会会長の皆さまに参加を頂き、厳粛のうちにも楽しく盛大に本年度の総会を終了させていただきました。また、総会にて県知事表彰の栄誉を頂いたことは、ひとえに先輩方のご指導と会員皆様のご協力と励ましによるものと心から感謝しております。

さて、母県福島県は今年で東日本大震災から十四年が経過しました。私ども各県人会は母県の応援を微力ながら継続してきたところであり、内堀知事のもと県民が一致団結

して復興に取り組み、新たな未来に向けて着実に前進し、必ずや復興を成し遂げ希望に満ち溢れた新しい「ふくしま」を築き上げていくものと確信しております。

おわりに、福島県人会北海道連合会はこれからも会員皆様と共に出来る限りの応援を続けていく所存であります。母県福島県の更なる復興発展と会員皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ会長就任の挨拶とさせていただきます。

## 連合会の活動

### 第五十三回福島県人会北海道

#### 連合会総会が開催されました

第五十三回福島県人会北海道連合会総会が、苦小牧市の「グランドホテルニュー王子」で、五月三十一日（土）に開催されました。

鈴木福島県副知事をはじめとした多数の来賓をお迎えし、道内各県人会から会員の皆様等、合計五十五名が出席しました。

総会では、事業計画や収支予算が承認され、次回の総会は札幌福島県人会・千歳福島県人会が担当することが決定されました。

式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会会長からの感謝状が贈られました。

#### 【感謝状受彰者】

福島県知事感謝状

渡辺 健治 様（苦小牧）



福島県人会北海道連合会会長感謝状

角田 博文 様（苦小牧）



懇親交流会では、全国新酒鑑評会で金賞を受賞した福島県産日本酒等を味わいながら、母県の思い出話に花を咲かせるとともに、来賓の方々と交え、会員同士の交流を深めました。

また、旭川福島県人会の佐藤貞夫様が吟舞「千島慕情」を披露され、宴に花を添えていただきました。さらに、地元苫小牧を中心に活動されている乙坂洋様の手品ショーや伊藤雅仁民謡三絃会様の民謡演奏が披露されました。最後は会場の皆で輪になって「相馬盆唄」を踊り、大盛況のうちに幕を閉じました。



【吟舞を披露される佐藤様】



【会場の皆で踊る相馬盆唄】



## 会員通信

憧れの苫小牧にて

札幌福島県人会

幹事 関 幸俊

学生時代、吉田拓郎にあこがれ、一番好きな歌が「落陽」でした。

「苫小牧発仙台行きフェリーあのじいさんときたらわざわざ見送ってくれたよ」とよく口ずさんでいました。札幌での生活も二十七年になりますが、山一廃業がなかったら北海道での人生はなかったと思います。

その間、福島県人会北海道連合会総会の苫小牧での開催は三回ありました。特に記憶に残る思い出は、平成十八年第三十四回の連合会総会でした。当時の知事は佐藤栄佐久知事でしたが、五期十八年目で多忙をきわめていました。

知事夫妻は連合会総会に参加後、フランスへ旅立つという強行スケジュールだったと記憶しております。その数か月後に逮捕されるという衝撃が走ったことは今でも忘れられません。

今回の第五十三回は、国政を経て十八年余り苫小牧市長を務めた岩倉博之元市長の訃報が伝わり心配

しておりましたが、現在の金澤俊市長の話が聞けて新しい苫小牧の市政を感じました。千歳ではラピダス特需、北広島ではエスコン開業三年目でファイターズの活躍もすばらしく今年の北海道には熱い夏がやってくるようです。

私も苫小牧での連合会総会は三回目ですが、今回は初めての泊りで憧れの苫小牧フェリーにも行き、学生からの夢がかなった瞬間でした。ところが、気が付くとカギ付きのサイフと万歩計までなくしてしまいました。やむなく妻にその旨を話すと「あなたもそろそろ認知症ね」と笑われました。翌朝ランドホテルニュー王子を早々に出て、数か所思い当たる場所を探しましたが見つからず悲しい思いで帰宅しました。翌日ランドホテルニュー王子のフロントの女性から客室の掃除中サイフらしきものが見つかったと連絡がありました。あの時は天にも昇る思いでした。清掃の方々、ほんとうにありがとうございました。今は落陽の歌のごとく、拾ったばかりのサイフと元気を取り戻しています。これからは老いも受け留め、全部抱きしめて生きていこうと思います。

## 「古希祝いのクラス会」に参加して

旭川福島県人会

会計部長 山口 正幸

古希を迎えるということは、高齢者講習の案内や寿バスカードの申請書が届いたり、趣味のゴルフではシルバーティから打てたりと、いよいよ、年寄りの仲間入りだ。ところが、県人会の方々は私より年配者が多く、いつまでたつても若造呼ばわりだ。

そんな時、福島県立田村高校三年四組の会から「古希祝いクラス会」の案内があり、五月二十五日、福島飯坂温泉に二十名の老男老女が集まった。二次会用の「鹿肉とジンギスカンのジャージャー」と「旭川男山の日本酒」をお土産に、妻のコーディネートした服を着て、苦小牧発仙台行きフリーで出発した。

田村高校には同窓会館があり、前日訪問し見学した。女性として世界で初めて世界最高峰エベレストの登頂に成功した、登山家「田部井淳子」女史が先輩であったことに驚いた。ご冥福をお祈りした。久しぶりの船引町の実家では、親戚一同を会しての大宴会に感激した。また、両親の墓前では、こんなに大きくなれたことを報告した。

クラス会では、中々顔だけでは思い出せない人もいたが、すぐに打ち解けた。恋した乙女は今も奇麗で胸キュンしたが、何故か、長年連れ添った旭川の妻の顔が脳裏に浮かんだ。

一週間の長旅を終え、三万石の「ままだおる」とかんのやの「ゆべし」、実家のコシヒカリをお土産に帰宅した。「お父さん、随分訛ってきたね！」の妻の言葉が福島で十分楽しんできた証である。



【山口様（最後列左端）】

## 福島県人会北海道連合会総会に参加して

美幌町福島県人会

監査 刈谷 敏子

五月三十一日と六月一日、第五十三回福島県人会北海道連合会総会

が、苦小牧市のグランドホテルニュー王子で開催されました。美幌町からは近藤会長、佐藤幹事長と私の三名が参加しました。福島県副知事の鈴木正晃様、福島県議会議長の西山尚利様をお迎えして、総会が開催されました。その後の懇親交流会では、私の席は「三春滝桜」でした。実家に帰れば必ず行く所です。旭川、千歳の皆様と同じテーブルでなごやかに食事を頂きました。「祝宴」では、佐藤様の吟舞、乙坂様の手品ショー、伊藤雅仁民謡三絃会の皆様のすばらしさに心をうばわれて、最高の幸せを感じ、ありがとうございました。最後の輪になつての盆踊りは最高に盛り上がり、多くの人が最高の幸せを感じたことでしょう。

部屋は札幌の武田道子さんと同室で、話をすれば武田さんの一つ一つ前向きに生きていく姿に後押しされ、頑張ることを教えられました。朝の食事会では札幌の高橋成子さんと武田道子さんの三人で食事を共にして、人それぞれ辛い思いをして人生を歩んでいて、前向きに行動していることに共感しました。

苦小牧の連合会総会は、私にとって最高のすばらしい懇親交流会、祝宴となりました。これからの人生を教えて頂いた人達に感謝します。

「自分の力を信じて、前向きに生

きていける」と今日まで自分を信じて生きてきた人達をいつまでも応援していき、私も自分を信じて生きていくとあらためてそう思いました。苦小牧の連合会総会は、私にとって一生忘れない日になりました。役員の方々、ありがとうございました。



【刈谷敏子様】

## フェスティバルに参加して

美幌町福島県人会

幹事 吉田 武薫

今年の北海道の夏は、異常な暑さです。全国の最高気温ランキングにも、帯広、北見などが上位にランクされ、北海道では考えられなかった熱帯夜も何日もありました。そんな異常気象は、作物にも影響を及ぼし、一か月まともな雨が降らない干ばつ、それに加え高温により、小麦の収穫も過去もつとも早い収穫時期を迎えました。

そんな今年の夏も、待ちに待った

福島県人会フェスティバルが六月十四日に、会員はもちろん、福島県北海道事務所、多くの協賛会員の皆様にご参加いただき、盛大に開催されました。連日の高温、干ばつにより人間の喉の渇きもピークに達しておりましたので、フェスティバルで飲んだビールはいつにもまして格別なものになりました。

ビールが進むにつれ、のどの準備も着々と整い始め、先輩方の張りのある歌声が響き始めました。ついっい時間の経つのを忘れ、あつという間にフェスティバルは終了いたしました。

日々の猛暑の中、農作物においても必死に枯れずに踏ん張っており、フェスティバルに参加された皆様も、今年の夏は疲れがたまってきたているなか、先輩方の元気な姿に、若輩者の私は、まだまだ頑張らなくてはならないと、非常に勇気をいただきました。

私事ではございますが、二〇二〇年に父が他界し、母は福島県の実家に一人で住んでおりますが、この度家族、地元の親戚とも相談し、今年の十二月に母親と美幌町で家族一緒に暮らすことになりました。そして、母にも福島県人会に入会を勧めたいと考えております。母にもその旨話をしたところ、大変喜んでおり、

楽しみにしております。今後とも家族ともども、どうぞよろしくお願いいたします。



【フェスティバルで挨拶する吉田様】

## 新会員の紹介

函館福島県人会

出村 ゆかり 様 (昭和村)

はじめまして。

このたび函館福島県人会に入会させていただきます。出村ゆかりと申します。

現在、函館市議会議員二期目を務めております。

議員になる前は介護の仕事に携わり、十二年前に「デイサービス」を立ち上げ、今も運営を続けております。私は函館生まれ・函館育ちですが、

進学のため札幌へ、その後は転勤生活で東京・大阪などに長く住んでおりました。

母が「からむしの里」で有名な福島県大沼郡昭和村の出身です。

母は会津若松で高校生活を送り、その後、叔父の会計事務所で働くために函館へ移り住み、そこで函館市役所に勤めていた父（出村勝彦）と出会ったそうです。

昭和三十五年頃—もう六十五年も前のことになります。

（ちなみに、母の叔父にあたる五十嵐長寿は、平成三年まで福島県人会北海道連合会の副会長を務めていたようです。）

昭和村にはたくさん思い出があります。

私が小学生の頃は毎年夏休みになると、母と私と妹の三人で函館から青森まで四時間ほど連絡船に乗り、青森から特急「はつかり」で郡山まで約六時間、郡山から会津若松までは磐越西線で約二時間（蒸気機関車でしたのでトンネルに入ると煙が車内に！）そこからさらにバスを乗り継ぎ—十二時間以上かけて昭和村へ通った記憶が鮮明に残っています。

昭和村は、まるで秘境のような手つかずの大自然に囲まれた村でした。

田んぼのきらめき、マムシが出る裏山を探検、川遊びに虫取り、夜には空一面の星と蛍…

あの風景は、今でも心の中に大切に残っています。

おかげさまで私の両親は、現在八十七歳と八十六歳で健在です。

今年のお盆には、七年振りに昭和村を訪れる予定です。

かつては長旅でしたが、今は新幹線のおかげでぐっと近く感じられるようになりました。

それでも、村に近づくにつれ、胸の奥がじんわりと温かくなるのは変わりません。

このたび、ご縁あつて福島県人会の皆さまとつながれたこと、心より嬉しく思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。



【出村ゆかり様】

旭川福島県人会

馬場 幸子 様 (会津坂下町)

このたび、旭川福島県人会に入会させていただきました馬場と申します。八十一歳になります。

生まれは福島県会津坂下町ですが、育ちは現在住んでいる旭川市ペーパン地区です。

旭山動物園から大雪山に向かって十五kmほど進んだ所です。この地区は明治三十一年福島県伊達市からの団体入植で開拓されたところ。この細長い沢地帯には、かつて南部団体、宮城団体、東京大空襲での団体入植、樺太からの引き揚げ者の入植と驚くほどの人々が入ってきました。

地域の中心部には太田神社(南相馬市原町)が鎮座し、過去には、松平知事、佐藤栄佐久知事にもお拝りにいただいております。

しかし、時の流れと世の中の変化により、現在は過疎地となつてしまひ、たった一つの小学校も廃校とされてしまいました。望郷の念で踊り続けたペーパン福島踊り保存会も令和七年三月で解散することとなつてしまいました。守り切れなかった悔しさは残りますが、全力投球だったなアとも思います。

私にどれほどの持ち時間が許されているのかは分かりませんが、福島を偲ぶことを続けたいと思っています。



【旭川市ペーパン地区】

美幌町福島県人会

- 藤原 公一 様 (出身 福島市)
- 照井 歌子 様 (出身 宮城県)
- 小林 勲 様 (出身 郡山市)

## 福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会にて

福島県産酒の十六銘柄が金賞を

受賞し三年振り日本一に！

入賞数も三十銘柄で全国最多

独立行政法人酒類総合研究所が開催している令和六酒造年度「全国新酒鑑評会」において福島県から三十銘柄が入賞し、そのうち十六銘柄

が金賞に選ばれました。

今回の鑑評会において、福島県は兵庫県と並び十六銘柄が金賞を獲得し、二年ぶりに都道府県別の金賞数日本一に輝きました。また、金賞を含む入賞数は三十銘柄で、新潟県と並んで全国最多となりました。

猛暑によって硬化した酒米に対応した高い技術が求められた中、各蔵元のたゆまぬ努力が結実し「日本酒王国ふくしま」の名を改めて響かせました。

福島県は平成二十四酒造年度から、全国新酒鑑評会における金賞受賞数日本一を九連続で達成しており、全国でも有数の日本酒の産地であります。来年の新酒鑑評会でも、金賞受賞数日本一を継続できるよう、「ふくしまの酒」を応援くださいますよう、よろしくお願ひします。

くだもの消費拡大委員会による

もものPRが実施されました

令和七年七月二十四日(木)から二十五日(金)の二日間、北海道札幌市にて福島県くだもの消費拡大委員会による福島県産もものPRが実施されました。

福島県からはミスピーチキャンペーンクルー(小野奈巳さん)をはじめ、主要産地である伊達市や国見

町、全農福島県本部、ふくしま未来農業協同組合から、市長や幹部の方が各市場や関係機関を訪問し、旬を迎える福島県産ものおいしさをPRしました。

また、札幌市内量販店にて福島県産もの試食販売を実施し、多くの方に福島のもの美味しさを知っていただくことができました。



【札幌中央卸売市場でのセリ台PRの様子】

チカホでの福島県産もも

PRイベントについて

令和七年七月二十五日(金)から二十六日(土)の二日間、チカホ北大通交差点広場にて、福島県産もものPRイベントを開催しました。

大好評だった昨年の売れ行きを踏まえ、昨年の四割増しでもを準備しましたが、初日・二日目ともに開始から一時間も経たずに、完売と

なりました。

お客様からは、「去年買って美味しかったので今年も楽しみにしていた」「ももは福島県産が一番美味しい」などの嬉しいお声を多数いただきました。福島県出身者や、ご家族が福島県にお住まいの方など、ゆかりのある方も多くいらつしやいました。多くの方にお越しいただき、福島のももをPRする格好の機会となりました。



【PRイベントの様子】

## 新任職員紹介

福島県北海道事務所

所長 植田 誠 (郡山市)

四月から北海道事務所長として  
参りました植田です。

大好きな北海道で再び仕事ので

きることを大変うれしく感じております。

再びと言うのは、平成二十年四月から平成二十二年三月までの二年間、福島県と北海道の交流人事により北海道職員として北海道庁に勤務しておりました。

そもそも福島県の職員が北海道で勤務すること自体なかなか経験できることではないのに、まさか二度も勤務することになるとは夢にも思いませんでした。おそらく北海道で二度の勤務を経験した福島県職員は私が初めてではないかと思えます。

そもそも母方の祖父が室蘭出身であることや、テレビドラマや大学時代の友人の影響で北海道の風土・食などに惹かれ、学生時代から何度も北海道を訪れているなど、若いころから北海道には特別な思いを持っていましたので、つくづく北海道と縁があるなど感じていきます。

一度目の北海道勤務の時は、右も左も分からず仕事も生活も慣れるまでに時間がかかりました。しかし、今回は着任早々に各県人会の皆様にお会いし懇親を深めることができたことや、道庁勤務時代にお世話になった上司や先輩、同僚などに歓迎してもらえたこともあり、あつという間に慣れることができました。

県人会の皆様や旧知の方々の存在はとて大きく力強いものだと思感しています。

あまり一人で遠出などしない性分ではありますが、せっかくの北海道生活ですので大いに楽しみたいと考えています。何かございましたらお誘い・お声掛けいただきますと嬉しいですよ。

最後となりますが、再び北海道に仕事をする機会に感謝し、福島県と北海道との絆を少しでも深められるよう微力ながら努めて参りますので、どうぞよろしく願います。



【札幌市 円山動物園にて】

## 編集後記

とまこまい港まつりに参加して

令和七年八月一日(金)から三日(日)の三日間、苫小牧市で開催された「とまこまい港まつり」に苫小牧福島県人会が出店し、福島県産も

も等の販売を実施しました。北海道事務所植田所長をはじめとする事務所員に加え、福島県庁県民広聴室の鈴木主幹が来道し、販売のお手伝いと福島県の観光PRを行いました。

港まつりの二日前に発生したカムチャツカ半島沖地震と津波の影響により、ものの配送に乱れが生じ、予定よりも少ない販売数となりました。それでも、港まつりでの福島県産ものの販売を毎年楽しみにしているお客様が、開店前から連日長蛇の列をつくるなど大好評でした。県人会の皆様が地域の根ざした取組を改めて拝見することができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。



【とまこまい港まつりの様子】